

基本目標2 誰もがお互い様の気持ちで支え合う地域づくり

重点施策（1）地域にあった支え合いの構築を図ります。

重点施策（2）世代を超え、誰でも参加できる身近な地域活動の充実を図ります。

地域には、それぞれの地域課題があり、その解決には地域独自の視点や取り組みが必要とされています。地域にあった住民同士の支え合いの仕組みづくりに取り組んでいきます。

あらゆる年代の人が、地域活動に参加できるよう、多種多様な地域活動の充実を図ります。

基本目標3 誰もがつながり、一緒に取り組む地域づくり

重点施策（1）複雑化・複合化した生活課題に対応するため、包括的な相談支援体制を構築します。

重点施策（2）必要な人が支援を受けることができるよう、分かりやすい情報提供を行います。

重点施策（3）個々の活動をつなぐ仕組みをつくりまします。

誰もが住み慣れた地域で、様々な問題を抱えながらも、その人らしく暮らすことができるよう、複雑かつ複合化した課題を抱える世帯や人を支援するために、ワンストップでわかりやすい相談窓口の設置など包括的な相談支援体制を構築します。

必要な人が支援を受けることができるよう、様々な媒体を活用して、必要な情報を分かりやすく提供します。

地域、行政、関係機関等が連携しながら、支援する体制を構築します。

基本目標4 誰もが安全で安心して暮らせる地域づくり

重点施策（1）災害の備えや地域の見守り体制を強化し、孤立しない地域づくりを行います。

重点施策（2）住み慣れた地域で自分らしく生活を送るために、福祉サービスの充実を図ります。

誰もが住み慣れた地域で安全で安心して暮らせるよう、平時の見守りや災害時に備えた体制づくりを推進し、孤立しない地域づくりを進めていきます。

また、様々な問題を抱えながらも自立した生活を送ることができるよう、各福祉計画で策定した事業の円滑な実施とサービスの向上を図っていきます。

【取り組みが貢献する SDGs のゴールとターゲット】

第4章 基本目標と施策の展開

基本目標1 誰もがいきいきと自分らしく暮らすことができる地域づくり

(1) 地域福祉への関心を高めます

【目標（目指す姿）】

あらゆる年代の人が地域福祉に関していつでも学ぶ機会や体験する機会があり、地域共生社会や多様性を尊重する社会への理解を深めています。

【現状と課題】

- ・市民アンケート調査で、地域福祉について、前回の調査より「知っている」と答えた人は、10ポイント増えていますが、「聞いたことはあるが意味は知らない」、「知らない」と回答した人は64.5%いました。
- ・地域活動実践者へのアンケート調査では、地域住民が取り組んでいくこととして、「誰もが支え、支えられるという支え合いの地域をつくること」「高齢になっても自分自身の健康づくりを続けていくこと」と回答した人は50%を超えていました。
- ・地域福祉や共生社会の考え方について、より一層の浸透を図る必要があります。

【協働による取り組み】

- ・いくつになっても、自ら生きがいを持ち、自己研さんにつとめましょう。
- ・地域福祉への関心や理解を深めましょう。
- ・多様性や個性の尊重について理解を深めましょう。

【市の取り組み】

- 福祉への理解や福祉教育を促進します。
- ・社会福祉協議会や福祉施設と連携し、小中学校での福祉教育やボランティア活動など体験学習を推進し、福祉への理解や関心を高めます。

【主な担当課：指導課、生涯学習課、福祉部関係課】

- ・人権を尊重する意識を高める取組みを行います。

【主な担当課：人権推進課、指導課、生涯学習課】

- ・認知症や障がいに関する知識や理解を深める取組みを行います。

【主な担当課：障がい者福祉課、高齢者福祉課】

【社会福祉協議会の取組み】

- 福祉教育や生涯学習等の充実を図ります。
 - ・大人から子どもまで全ての世代を対象とした福祉教育の推進を図ります。
 - ・地域福祉や介護予防に関する出前講座を充実し、地域福祉への理解や関心を高めます。
 - ・認知症サポーター養成講座や、共生支援事業等の開催により、地域共生社会への理解を深めます。

【指標・目標】

指標	現状	目標

(2) 地域福祉活動の担い手を育成します

【目標（目指す姿）】

地域福祉に対して理解・関心が深まり、あらゆる年代の人が地域福祉活動に参加しています。

【現状と課題】

- ・少子高齢化や核家族化により地域で支援を必要とする人が増加する一方、地域における福祉活動の担い手不足や担い手の高齢化が課題となっています。
- ・市民アンケート調査では、ボランティア活動に参加したことがない人に理由を聞いたところ、「活動の内容や参加方法がわからない」と約30%、「健康や体力に自信がない」と約26%の人が回答しています。
- ・生涯を通じて、地域福祉活動の担い手として活躍するためには、健康を維持増進するための取組みも必要となっています。
- ・ボランティア活動を活発化するには、情報提供やコーディネート機能の強化が求められています。

【協働による取組み】

- ・地域の状況に関心を持ち、ボランティア活動に参加しましょう。
- ・地域や身近な範囲で地域の支え合い活動に取り組めるよう、日頃のコミュニ

- ・ ケーションを深めましょう。
- ・ 自身の持つ技能や知識を生かしたボランティア活動に取り組みましょう。
- ・ 健康増進や介護予防に努めましょう。

【市の取組み】

- ボランティアや福祉人材の育成を図ります。
- ・ ボランティアとしての活動が期待される人材の発掘と経験や知識を地域に生かせるよう支援を行います。

【主な担当課：関係課】

- 健康意識の醸成を図ります。
- ・ 健康づくりや介護予防に取り組みます。

【主な担当課：健康医療課、中央保健センター、高齢者福祉課、介護保険課】

【社会福祉協議会の取組み】

- ボランティア活動を推進します。
- ・ 市と連携しボランティアへのきっかけをつくるような講座の開催やボランティア団体の支援等、ボランティアセンターの機能強化を図ります。

【指標・目標】

指標	現状	目標

基本目標 2 誰もがお互い様の気持ちで支え合う地域づくり

(1) 地域にあった支え合いの構築を図ります。

【目標（目指す姿）】

地域住民同士が日頃からの声かけや、さりげない見守り活動により、互いに支え合う地域づくりができています。

地域の実情に合わせた地域福祉活動の取組みが行われ、地域住民が力を合わせ地域課題に取り組んでいます。

【現状と課題】

・ 地域活動実践者等へのアンケート調査で、地域で課題と感じていることや地域福祉推進のために地域住民が取り組むべきものについては、それぞれ地域により差があることが分かりました。

・ 地域の中で地域課題に対応するためには、住民の主体的な参加協力と、地域課

題の共通理解や解決に向けた連携が必要です。

・地域活動実践者へのアンケート調査では、「声かけを続けることで関係性が構築できる」との意見が多くありました。また、前回の調査時点（平成27年度）より「隣近所の見守りや声かけが進んだ」と感じている実践者は45.7%いました。

・支え合いの地域づくりのために、今後もあいさつ等の声かけ活動を実践していく必要があります。

【協働による取組み】

- ・あいさつ等、ご近所と日頃から関わりをもち、顔見知りの関係を築きましょう。
- ・自治会など地域の活動や行事に積極的に参加し、地域への関心を高めましょう。
- ・無理のない範囲で手伝えることを意識して取り組んでいきましょう。

【市の取組み】

●住民主体の活動を支援します。

- ・各種団体の活動に対する支援や活動内容の周知を図ります。

【主な関係課：関係課】

●高齢者や障がい者・児、子育て世帯の地域生活を支援します。

- ・地域包括ケアシステムの拡充を図ります。

【主な関係課：高齢者福祉課】

- ・障がい者・児を地域全体で支える体制づくりを進めます。

【主な関係課：障がい者福祉課】

- ・地域による子どもや子育て家庭への見守りや支援に努めます。

【主な関係課：保育課、子ども未来課】

【社会福祉協議会の取組み】

●住民自らが参加する小地域福祉活動を推進します。

- ・くき元気サービス等、住民同士の助け合い活動を推進します。
- ・福祉委員によるあいさつや見守り活動を推進します。
- ・身近な地域の範囲で、地域の実情に合った福祉活動を推進します。

【指標・目標】

指標	現状	目標

(2) 世代を超え、誰でも参加できる身近な地域活動の充実を図ります。

【目標（目指す姿）】

自分の身近な地域で、誰でも参加できる地域活動や交流することができる場があります。さらに、多様な交流機会が増えることにより、問題を早期に発見できる環境が整備されています。

【現状と課題】

- ・市民アンケート調査で、39.4%の人が「地域活動に参加したことがない」と回答しています。参加したことがない理由として、53.8%が「活動する時間がない」、24.6%が「健康や体力に自信がない」と答えています。
- ・市民アンケート調査で、地域で課題と感じていることは、「住民同士の交流の場の不足」と24.2%の人が回答しています。
- ・地域活動実践者へのアンケート調査では、今後地域住民が取り組むこととして「地域で誰もが参加できる場や交流できる場を増やしていくこと」と回答した人は48.5%いました。
- ・身近な地域に参加できる場があることで、困りごとの早期発見や助け合いにつながりやすくなります。多様な交流の機会やつながりを持てる拠点を増やしていくことが必要です。

【協働による取組み】

- ・地域の拠点として、年代や障がい等に関わらず、誰もが参加しやすく、気軽に交流し、相談できる場をつくりましょう。
- ・自分自身も人や場所とつながり、安心して暮らせる環境をつくりましょう。

【市の取組み】

- 居場所づくりを支援します。（交流拠点の整備・交流機会の充実）
 - ・地域住民の交流の場となる活動拠点として、公共施設や民間施設を活用した交流の場づくりを支援します。
【主な関係課：市民生活課、高齢者福祉課、子ども未来課、関係課】
- 地域のコミュニティ活動を支援します。
 - ・地域活動を担う団体に対する支援や地域固有の活動に対する支援を行います。
【主な関係課：市民生活課、社会福祉課、子ども未来課、関係課】
- 市民団体、ボランティア等を支援します。
 - ・補助金を交付し、市民団体やボランティア等の活動を支援します。
【主な関係課：市民生活課、社会福祉課、高齢者福祉課、子ども未来課、関係課】

【社会福祉協議会の取組み】

- 小地域福祉活動を推進します。
 - ・ふれあい・いきいきサロン等、誰でも参加できる場づくりに努めます。

また、サロン同士の情報交換やネットワークの構築を図ります。

【指標・目標】

指標	現状	目標

基本目標3 誰もがつながり、一緒に取り組む地域づくり

(1) 複雑化・複合化した生活課題に対応するため、包括的な相談支援体制を構築します。

【目標（目指す姿）】

複雑化・複合化した生活課題で困っていても、地域や専門の支援機関の支援を受けながら、住み慣れた地域で生活しています。また、相談したい人は一つの窓口につながることで、多くの関係機関と解決方法を考えていくことができます。

【現状と課題】

- ・市民アンケート調査で、相談支援体制について、「困りごとがあったときに、相談できる場、支援を受けることができる環境等が整備されていると思うか」について質問したところ「思う」、「どちらかというと思う」と回答した人は17.6%でした。また、約5割の方が「相談機関の情報提供」や「包括的な相談窓口」を求めています。
- ・地域活動実践者へのアンケート調査でも、市や社協が取り組むこととして「相談しやすく、たらい回しにならない相談の窓口をつくること」と多くの方が回答していました。
- ・複合的な生活課題に対して、個々の相談窓口では、十分に対応しきれていない現状があります。
- ・地域住民、市、関係機関が連携し、複合的な生活課題に対応でき、誰もが利用しやすい包括的な相談窓口を構築することが求められています。

【協働による取組み】

- ・「困ったときはお互いさま」と考え、ひとりで抱え込まないようにしましょう。
- ・総合相談窓口を知り、気になることは気軽に相談しましょう。
- ・地域に心配な方がいたら、民生委員・児童委員をはじめ、市や社協等の相談窓口を紹介しましょう。

【市の取組み】

- 複雑化・複合化した生活課題に対応します。
 - ・包括的な相談支援体制を構築します。
【主な関係課：社会福祉課、関係課】
 - ・虐待防止に向けた体制の充実を図ります。
【主な関係課：障がい者福祉課、高齢者福祉課、子ども未来課、関係課】
 - ・生活困窮者等の自立を支援します。
【主な関係課：生活支援課、関係課】
 - ・ケアラーへの支援を行います。
【主な関係課：高齢者福祉課、介護保険課、障がい者福祉課、子ども未来課、指導課】
 - ・成年後見制度の利用促進や権利擁護事業の利用支援を行います。
【主な関係課：高齢者福祉課、障がい者福祉課】

【社会福祉協議会の取組み】

- 総合相談機能を強化します。
 - ・多様な相談を受け止め、他機関と連携しながら支援に取り組めます。

【指標・目標】

指標	現状	目標

- (2) 必要な人が支援を受けることができるよう、分かりやすい情報提供を行います。

【目標（目指す姿）】

支援が必要な人が、必要な情報を得ることができ、必要な支援を受けることができます。

【現状と課題】

- ・地域活動実践者へのアンケート調査では、市や社協が取り組むこととして「必要な福祉情報を必要としている人に適切に届けること」と多くの人が回答していました。以前よりは「福祉に関する情報を得やすくなった」という意見も多数ありますが、よりわかりやすい情報提供や積極的に情報発信していくことが求められています。
- ・様々な媒体を使い、理念や方向性など理解を求める内容も含め、きめ細やかに情報を提供していく必要があります。

【協働による取組み】

- ・ 広報や回覧などは意識して見ることで、日頃の情報収集に努めましょう。
- ・ 地域の情報に関心を持ち、近所で困っている方に、情報を伝達しあいましょう。
- ・ 情報を受け取りにくい方に対しても、日頃からコミュニケーションを深め、情報交換や、支援に努めていきましょう。

【市の取組み】

- 広報紙をはじめ様々な媒体を使い、分かりやすい情報提供を行います。
- ・ 広報くきをはじめとする市の刊行物や市ホームページ、SNS や動画チャンネルなども活用しながら、福祉に関する情報を分かりやすく発信していきます。

【主な関係課：関係課】

【社会福祉協議会の取組み】

- わかりやすく多様な手法による情報発信を行います。
- ・ ニーズや世代に応じて、社協だよりやホームページ等の活用を工夫します。
- ・ 地域福祉について理念や方向性等を含め、必要な情報提供に努めます。

【指標・目標】

指標	現状	目標

(3) 個々の活動をつなぐ仕組みをつくります。

【目標（目指す姿）】

複雑かつ多様化した地域生活課題を、地域や専門の支援機関が連携しながら支援する仕組みが構築されています。

【現状と課題】

- ・ 地域活動実践者等へのアンケート調査で、住民と関係機関との連携の場が少なく、十分な支援につながっていないことが問題として挙げられました。また、地域特性により、地域課題が異なることも明確になりました。
- ・ 地域生活課題は複雑かつ多様化しており、既存の制度や個々の取り組みだけでは支えきれないニーズが増えています。地域の特性や地域資源に精通し、それぞれの地域でどのように課題解決に取り組むかを、住民や専門職と一緒に検討していくことが求められています。
- ・ 個々の取り組みをつなぎ合わせ、従来の福祉分野に限らない幅広い分野の主体の参加と協働により、新たな課題に取り組むことが求められています。

【協働による取組み】

- ・それぞれの活動の中で困った時は、別の活動者と一緒に取り組めることを探してみましよう。
- ・情報共有や意見交換の機会を持ちましよう。

【市の取組み】

- 地域福祉に関わる関係機関との連携強化を図ります。
 - ・民生委員・児童委員との連携を図ります。
【主な関係課：社会福祉課】
 - ・各支援機関が円滑な連携のもとで支援が出来るように取組みます。
【主な関係課：社会福祉課、関係課】
 - ・地域生活課題の解決に向け高等教育機関や民間事業者等と連携を図ります。
【主な関係課：関係課】

【社会福祉協議会の取組み】

- CSW（コミュニティソーシャルワーク）機能を推進します。
 - ・地域住民や関係機関と、制度、分野、世代等を超えた活動や、新たな課題の解決にむけた連携について取組みます。
 - ・地域アセスメントを行い、地域課題の把握や地域づくりに役立てます。

【指標・目標】

指標	現状	目標

基本目標4 誰もが安全で安心して暮らせる地域づくり

- (1) 災害の備えや地域の見守り体制を強化し、孤立しない地域づくりを行います。

【目標（目指す姿）】

日頃から近所同士のあいさつや見守り活動があり、災害時にも互いに声をかけあえる地域づくりができています。

【現状と課題】

- ・市民アンケート調査で、地域の人にして欲しい手助けは、「災害などの緊急時の手助け」、「安否確認や見守り」と多くの人が回答していますが、困った時に手助けを求めることについては、約5割の方が、「遠慮してしまう」や「わからない」と回答しています。
- ・市民アンケート調査で、災害時に住民が支え合う地域づくりで必要なこととし

て、「日頃からのあいさつ、声かけやお付き合い」と75.2%の人が回答しています。

・地域活動実践者へのアンケート調査で、市や社協が取り組むこととして「災害や緊急時の体制を構築すること」と多くの方が回答しています。

・平時の見守りや災害時に備えた体制づくりを推進し、孤立しない地域づくりを行っていく必要があります。

・各地域の災害に対する温度差がみられるため、地域課題や状況にあった体制づくりが求められています。

【協働による取組み】

・日頃から、何かあったら助け合える関係であるよう、声かけしあいましょう。

・地域の自主防災活動や防災訓練に参加しましょう。

・日頃から要援護者の見守りや声かけを行い、災害時には安否確認や避難誘導等の支援に努めましょう。

【市の取組み】

●住民主体の見守り活動を推進します。

・要援護者の見守りや登下校時の見守り活動の支援を行います。

【主な担当課：社会福祉課、高齢者福祉課、学務課、担当課】

●住民主体の防犯、防災活動を推進します。

・防犯パトロール、防災訓練、自主防災組織の支援を行います。

【主な担当課：市民生活課、消防防災課、社会福祉課】

【社会福祉協議会の取組み】

●あんしんカードの設置を推進します。

・災害時や緊急時に活用できるあんしんカードの必要性を周知し、配布や設置を推進します。

●災害ボランティアセンターの運営

・災害時に備えて、災害ボランティアセンター立上げ訓練を実施します。

・災害に備える地域活動への参画とネットワークを強化します。

【指標・目標】

指標	現状	目標

(2) 住み慣れた地域で自分らしく生活を送るために、福祉サービスの充実を図ります。

【目標（目指す姿）】

福祉サービスを必要とする人が、必要なサービスを受け、住み慣れた地域で自分らしく生活しています。

【現状と課題】

- ・市民アンケート調査で、地域福祉を充実させるために優先的に取り組むこととして、「福祉サービスの質の向上」や「福祉サービスの充実」を挙げている人が約3割いました。
- ・専門職へのアンケート調査で、生活困窮者や権利擁護の支援が必要な方の潜在化した課題が見えにくく、支援につながらないという声が多くありました。支援の必要性を感じていても、利用者や家族の理解が得られなかったり、身元保証等を安心して任せられる支援機関の情報や体制等が十分でないことが考えられます。
- ・自立支援や権利擁護の体制を充実する必要があります。
- ・住んでいる地区での心配事では、移動手段について課題と答えている人が多くいました。
- ・住み慣れた地域で自立した生活を送るために、各福祉計画で策定した事業の円滑な実施と福祉サービスの向上を図っていく必要があります。

【協働による取り組み】

- ・自ら困っていることを発信し難い方が、心配な状況にあることに気づいたら、相談窓口につなげ、一人ひとりの権利擁護に努めましょう。
- ・相談支援機関やサービス事業所等は地域住民との関係づくりに取り組み、地域のニーズを把握し、サービスの改善、充実に取り組みましょう。

【市の取り組み】

- 各福祉計画で策定した事業を円滑に実施します。
 - ・高齢者福祉計画・介護保険事業計画、障がい者計画、障がい児福祉計画、障がい福祉計画、子ども・子育て支援事業計画で策定した事業を円滑に実施します。
【主な担当課：高齢者福祉課、介護保険課、障がい者福祉課、子ども未来課、保育課】
- 交通弱者対策に取り組みます。
 - ・民間公共交通と公共交通との連携を図り、市民の移動手段の確保に努めます。
【主な担当課：交通企画課】
- バリアフリー及びユニバーサルデザインを整備します。
 - ・公共施設等におけるバリアフリー化等の施設整備を進めるとともに、ユニバーサルデザインについての理解を深め、普及・活用を図ります。
【主な担当課：障がい者福祉課、担当課】

【社会福祉協議会の取組み】

- 権利擁護に関する理解の促進に取り組みます。
- 各種サービスや事業を円滑に実施します。

【指標・目標】

指標	現状	目標